

開催地名：京都府精華町	
開催日時	令和元年 12 月 21 日（土） 10：00 ～ 11：30
開催場所	精華町役場
語り部	海老 糸子 （岩手県遠野市）
参加者	精華町内の自主防災組織 約 60 名
開催経緯	大規模な災害が発生したことがないため、住民の災害に対する危機意識が乏しく、防災訓練等への参加が少ないこと、また、自主防災組織の活動への若年層の参加が少ないこと、そして若年層の防災リーダーの育成が困難であることから、防災活動の活性化を図るため、語り部の講演を開催したい。
内容	<p>（１）はじめに</p> <p>遠野市は、岩手県の中央より少し南に位置する、内陸の都市である。古くから、交通と交流の要所として、多くの人と物と心の結節点として発展してきた。活断層もなく、花崗岩地質で安定した地盤を持つため、古くから災害に強いまちとされていた。この特徴を活かして、津波や地震の被害に対する後方支援をすることを意識し、実際に東日本大震災以前から後方支援に関する訓練を行ってきた。私は、遠野市赤十字奉仕団に所属し、東日本大震災では主に後方支援を行った。後方支援における女性の役割などを伝えたい。</p> <p>（２）東日本大震災発生</p> <p>平成 23 年 3 月 11 日、午後 2 時 46 分、国内観測史上最大級の地震が発生した。国内の最大震度は 7、遠野市でも震度 5 強を観測し、市内の至る所に被害を及ぼした。市役所本庁舎、中央館が全壊、市内全域で停電が発生したのみならず、道路や水道などのインフラも甚大な被害を受けた。雪の降りしきる中、市役所では使えなくなった本庁舎、中央館前の駐車場にテントを設営し、災害対策本部を設置、午後 3 時 28 分には、市内全域に避難勧告が発令され、市民の安否確認と安全の確保、そして市内の被害状況の全容解明に努めた。午後 3 時には運動公園の開放を指示、発災と同時に自衛隊、警察、消防、医療隊をはじめとした救援隊の受け入れの準備が進められた。これまでの訓練が生かされ、いち早く後方支援拠点の提供の動きがスムーズに展開されたと言える。</p> <p>赤十字奉仕団は、昭和 63 年に結成され、主な活動は、炊き出し・募金活動などの災害救援活動、市内事業所で毎月行う献血推進活動、海外たすけあい募金やバザーなどの地域福祉活動の 3 つである。東日本大震災では、発災後から団員 150 名で炊き出し活動を行った。</p> <p>（３）後方支援活動の展開</p> <p>3 月 13 日には、後方支援活動の本格化を図るため、遠野市、後方支援活動本</p>

部を設置、その後、3月19日からは職員を被災地域へ派遣し、現地での支援にあたった。遠野市の活動は、行政だけではなく、多くの市民と心をつなげた官民一体の後方支援活動へとつながった。被災地へと届けられた炊き出しのおにぎりは14万食にもものぼり、そのほとんどは、地域の人たちが持ち寄ったお米を、日赤奉仕団や地域婦人団体協議会、市民が、心を込めて握ったものであった。市民が率先して提供した物資は、駆け付けた高校生たちが仕分けをし、被災地のニーズの把握に努めながら送り届けた。

また、発生から11日後の3月22日からは、市民ボランティアを被災自治体に派遣し、作業にあたった。市内の入浴施設の無料開放や、バスの送迎など、近隣市町村だからこそできる身近な支援活動を展開した。市内へ避難してきた人たちには、食料や灯油、日用品、商品券などの物資の配布を行い、長期化する避難生活への定期的な、細やかな支援を実施した。ほかにも、遠野被災地支援ボランティアネットワークのまごころネットが開催していた「まけないゾウ」タオルの作成や、被災者とボランティアの交流会などを開催し、被災者支援を行った。

(4) 最後に

災害はいつ起こるかわからないため、最小限の備えを心掛けてほしい。津波が来たときに、必要なものを家に取りに帰り、流されてしまった人がたくさんいる。特に高齢者は保険証やお薬手帳など、非常食や水とあわせて、すぐに持ち出せるようにしておいてほしい。一番大事なのは自分の身を守ることであるが、その次に必要なことだと思う。よろしく願いしたい。



開催地より

語り部の炊き出しや後方支援のお話は、とても参考になるものだった。今日のお話を今後の防災活動に役立てていただきたいと思います。